様式２号

視察等報告（復命）書

三次市議会議長　様

報告者氏名　鈴木　深由希

下記のとおり，視察が終了したので報告します。

会派代表者	印	経理責任者	印

視察議員	鈴木　深由希
期間	平成２９年０５月１１日（木）～平成２９年０５月１２日（金）
視察先	ワークピア広島
視察用務	一般社団法人　地方議員研究会主催　議員研修会　講師：宮本正一氏
視察先対応者	無し
概要及び所見	**執行部との議論に勝つ連続講座** **5/11　『キラリと光る質問原稿の書き方』** ・質問項目の決め方：戦略的に考 ①　テーマを考える→自分のプロフール、興味ある分野、緊急性ある分野の問題提起等。②優先順位を考える→公約、調査結果の集大成、出馬前の確認（総合計画、まち・ひと・しごと戦略戦略チェック） ・質問作成基本手順：現場主義、担当課と協議、先進地視察。 **【所見】**講座の時、講師が６月定例会で一般質問予定者に質問する人？と問われ、手を挙げ、準備している内容を伝えたら評価を頂いた。自分の課題は、執行部の答弁が質問の主旨に沿っていない場合や検討が行われる具体性に欠ける場合の返しが弱い点であると常日頃感じている。この事へのアドバイスを頂いたので、実行に移したい。自分が当初から、行政用語、カタカナ用語の使用を極力避け、市民に分かり易い表現を使用、結果しか知らされない市民に事案の協議進捗状況、施策の啓発に繋がる質問を心がけている点は評価されたのでこれからも心がけていきたい。情報収集では、国・都道府県からのヒヤリングも担当者へ直接行っていく。

	5/12　『私立に負けない公立学校の作り方』 ・教育委員会制度：首長口出し不可中心の歩み→総合教育会議設置 ・特色ある公立学校をどう創るか →ステップ１：首長が差別化できる公約を掲げる、選挙の信託を得る。 ステップ２：その方向に向かって学校間競争を実施、補助金ではなく交付金を利用。 ・教育委員会を動かす議員活動とは：教育環境の充実→教育サービスの観点を提案、校区問題、教育費は交付税丁寧に使うことを提言。 【所見】テーマで私立に負けない・・・と私立が優位である現実を明記。確かに、有名大学進学率、スポーツ強豪校など私立は特色を強く打ち出している。しかし、学費面で進学が叶わない児童生徒がいる現実を考えると、憲法第26条に等しく教育を受ける権利を有するとある以上、公立学校の役割は重要。特色が出しにくい公立学校の在り方が、総合教育会議制度によってどう改革されるのか。教育現場に関する質問の答弁はいつも「指導要綱にのっとって…」「研修をもとに…」「教育ビジョンに掲げている…」保護者、教職員の声が届いていないと、時に怒りを覚える。指摘のみに留まらず、文科省が打ち出す制度の利用も提言するが一向に進まない発達障害児支援など課題解決に粘り強く活動を続ける。